



# 浜家連 ニュース8月号

第264号  
2022年8月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836

URL <http://hamakaren.jp/>

## 第26回参議院議員通常選挙の投票立会人に選任されて 副理事長 土屋 克也

去る2022年7月10日、第26回参議院議員通常選挙の投票立会人として居住している保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町のS小学校に、早朝6時半前に校門の玄関をくぐり抜けました。当日の天気は、小雨模様で降ったり止んだりが一日中続くあいにくの天気でした。



S小学校での投票所を例に投票立会人のお話しを書かせて頂きます。

この日は、今年のメインイベントとして早くから準備が進められ、6月22日公示された参議院選挙の投票日でした。投票立会人の就任は、4月下旬、各投票所の投票管理者より立会人に推薦され承諾後、選任されたものです。

選挙管理委員会から提供された待遇は、投票時間に対応した朝6時30分より夜の9時ぐらいまでの拘束で日当は、1万2千円、昼食は自己負担、休憩時間（計3.5時間）での茶菓は提供されます。

当投票所には、市職員4名を含む総勢14名のスタッフで終日運営されました。保土ヶ谷区の場合、このような投票所が41か所設置されたとの事です。

当投票所の場合、有権者数約6,500名、事前投票2割、当日投票率50%で計算すると2,600名の方々の投票が見込まれました。実際の投票者数は、2,560名ほどで、平均的投票所と言えると思います。

ここで投票立会人の主な業務をご紹介します。

- 1 投票管理者に協力し、投票事務に立ち会う
- 2 当日一番最初の投票者の投票に投票箱のカラ確認の立会
- 3 投票者より意見を求められた時、意見を述べる事が可能
- 4 投票箱の閉鎖確認（署名捺印）と開票所への運搬に同乗する

などが有ります。字で書くと難しい事ばかりに思えますが、実際には、投票の安全管理に努め、事なきよう公正に投票日一日を終わることを目標としての職務です。

以上のように投票立会人の職務を経験させて頂きました。公益の代表として職務は、非営利団体である当家族連合会にも通じるものと思います。

やはりその概念は、「つくす」という意味に通じているものと思っています。

## 浜家連の動き

.....



- 立憲民主党、公明党、自由民主党・無所属の会へ要望書の提出、懇談会を行いました。それらについて報告が届いています。この後も日本共産党、日本共産党神奈川県議団、横浜市健康福祉局が予定されています。

### 立憲民主党との懇談

H. K

6月14日(火)横浜市庁舎議会棟7階委員会室で立憲民主党議員団と懇談会を行いました。浜家連三役から、最重点要望項目の「医療費助成の拡充、重点要望項目の「精神障害者が安心して暮らせる街づくり」、「安心して受けられる医療」について説明をしました。

議員ができることについては市民の要望が多様なので、自身が目指していることでも、個々それぞれの分野の件を自分から学んで、できるだけ市民の意に沿う行動を考えて、具体化するようにして頂きたいです。

### 公明党への要望書の提出と懇談会

あけぼの会 河野正男

6月17日(金)14:00~14:40の間、横浜市議事堂特別会議室(5階)で、公明党議員団と会合をもった。公明党側からは中島光徳市議他6名が出席し、浜家連からは井汲理事長をはじめ10名が参加した。

昨年度横浜市に提出した「令和4年度予算編成に対する要望書」に対する市当局からの回答書(A4版2枚)が配布された後、「要望書」に沿って、各担当者から、最重点要望項目の「医療費助成の拡充」ならびに重点要望項目の「精神障害者が安心して暮らせる街づくり」および「安心して受けられる医療」の内容の説明をした。

中島議員から、「大事な要望なので、内容をしっかり把握していきたい」との回答があり、さらに「現在、治療薬の改善が進んでおり、また、入院が少なくなっているのではないか」との質問にたいして、浜家連から「治療薬による副作用は減少している」および「入院期間は短縮しているが、薬物療法偏重の傾向は否めない」との実状を訴えた。



### 自由民主党・無所属の会横浜市会議員団あて要望書

若杉会 西川進

6月16日(木)に自由民主党・無所属の会横浜市会議員団と浜家連との懇談会が開催されました。自民党からは黒川、鈴木、山下ほかの各議員が、浜家連からは宮川理事長をはじめ11名が参加しました。

自己紹介後、浜家連からの最重点要望項目2項目と重点要望項目7項目の説明を行いました。特に、医療費助成の拡充では、神奈川県内での地域格差の解消や診断書の無料化を要望しました。精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのなかでは、教育・啓発事業として精神疾患の正しい理解促進の注力などを要望しました。

議員との質疑では、保土ヶ谷区のアウトリーチ事業について質問があり、現在6人の利用者があり自立支援事業として2年間実施してきたことを説明した。

—横浜市会議員団あて要望事項—

#### ■医療費助成の拡充について

1. 精神障害者への医療費助成制度の拡充と格差解消
2. 診断書の無料化

#### ■精神障害者が安心して暮らせる街づくりについて

3. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進



4. 福祉人材の確保
5. 各区の保健福祉センターMSWの増員
6. 福祉パスのICカード化

■安心して受けられる医療について

7. 患者の権利擁護の徹底

■精神障害の周辺にある障害への支援

8. 発達障害児者への支援
9. 強度行動障害、薬物依存症、触法障害者への支援

大羽前副理事長より退任の挨拶が届きました

退任しました副理事長、これまでありがとうございました

前副理事長 大羽 更明

5月末の第14回通常総会を以って、6年間務めた職務を辞めさせていただきました。これまでの組織内外のみなさまのご協力に、心より感謝申し上げます。

浜家連と大羽との関わりは、はじめて常任理事になった2014年に起きた「精神科病棟転換型居住系施設」問題からです。この施設は、病的には必要ない入院なのに退院後の住居と生活環境支援がないため、地域移行が進まない方の処遇についての厚労省審議会の提案です。地域（院外）に新たな施設を作り退院者の地域移行事業を実施する代わりに、従来入院病棟を使い、そこに住むことで制度上は退院したことにするという、病院経営優先のまやかし地域移行事業であるとの強い批判にさらされて、この事業は実現しませんでした。

浜家連の理事の多くが障害者支援団体や弁護士、知識人などと共にこの居住系施設に反対する集会にも参加しましたが、中にはその動きに反発する方もおられました。退院の見通しが立たないまま長期の入院を余儀なくさせられている当事者のご家族です。建前上の正論ではなく、当事者である家族が精神病院で最期を迎えるという悲劇は避けたい、自分の生きている間に家族を退院させたい、浜家連が一方的に反対運動に偏るなら組織からの脱退も辞さない、と必死の願いを訴えられました。

この事態を受けて、作成・発表されたのが『病棟転換型居住系施設問題』に関する浜家連の立場（案）」という名の声明素案でした。素案は、精神障害者に対する良質で適切な医療の提供の仕方を最重点課題として議論する中で、精神障害者の地域移行の問題に焦点を当てる必要があります。どちらの立場にも属せず、組織の分裂を避ける努力をしたことは評価していいと思います。また、アウトリーチなど精神科医療それ自体の地域移行、精神障害者が地域で生活できるような資源の開発の必要性にも触れるべきだったと思います。

副理事長の頃の印象深いできごとは、①横浜市障害者差別解消検討部会と、②浜家連が独自に行った障害者差別事例アンケートです。

- ① は、差別解消法の施行に合わせて開催された横浜市の差別解消推進協議会の下部審議会で、2014年11月から2015年9月までの9回、障害当事者11人、家族2人、支援者や弁護士6人の構成で開かれました。会議がはじまると同時に数人の委員が手を挙げて発言を求め、各自の体験に基づく差別事例を報告し意見交換によ

り情報共有し、会議が終わると誰もが多くの発見・学びがあったと興奮しています。

異なる障害者の体験交流と連帯感がこれほどの感動につながったのを見たことはありませんでした。

- ② は、浜家連の会員を対象とした自発的なアンケート収集と分析です。集まった回答254件を、医療、福祉、労働、生活、所得などの9分野で分類し、その特性について先ずA不利益的取り扱いとB合理的配慮の欠如に分け、さらに権利の侵害、非科学的差別、言い回しによる差別、無意識による差別など11区分に分類整理しました。これは膨大な作業になりましたが、南区のMさんと旭区のAさんのお力、取り分け、ALSという難病に罹患されたことがわかったMさんの献身的な働きによって完成されました。分析結果は、浜家連ホームページの<調査・研究>のタブの「差別を感じているアンケート調査」からご覧ください。



### § イベント情報 §

#### ◆ 2022年度 第1回 市民メンタルヘルス講座 ◆

**安心して受けられる精神医療と出会うために**  
**～患者や家族が知っておくべきポイントと発信力の向上の勧め～**

日 時 : 2022年9月17日(土) 13:30~16:00

場 所 : 横浜市健康福祉総合センター4階ホール

講 師 : 佐藤 光展 氏

医療ジャーナリスト

神奈川精神医療人権センター顧問&Web サイト編集長

入場無料 定員 300名(先着順)

事前申し込み必要(FAX又はメール)

FAX : 045-548-4836

Eメール : ysskr@bloom.ocn.ne.jp



#### 【編集後記】

7月10日(日)参議院選挙が行われ、自民党の圧勝に終わりました。話題となったタレントの新人候補も何名か当選を果たしたようです。この参議院選挙の数日前に、奈良で応援演説を行っていた安倍元総理が銃で襲撃されて亡くなりました。あつてはならない事件です。この日本で、それも銃で。

マスコミ等の報道によると、犯人は母親がある教団に莫大な献金を行なったため、家族は崩壊し、ひいては自分の人生もメチャクチャにさせられた。との思いから強い復讐の思いを持ったようで、教団を襲撃しようとしたが無理なことがわかり、教団とのつながりが強いと思い込んでいた安倍元総理を襲撃した、とのことらしい。

想像するに犯人は家族が崩壊に向かった頃から孤独となり、気持ちが内へ内へと向かって最終的には襲撃すること以外には考えられなくなってしまったように思う。彼に関する人が一人でもいたら、「同じ思いをしている人達と一緒に」との発想があったならば、事件はおこらなかったように思えて残念でならない。(事務局 中居)